復興まちづくり訓練の参加者 ※敬称略

望月　千明	青葉町
花崎　忍	青葉町
山本　和夫	川原宿
井出　清俊	川原宿
川口　達也	本市場３
荻野　幸夫	本市場３
長田　隆男	本市場４
芝田　多鋭	本市場４
三枝　博	塔の木
田村　敬子	塔の木
野中　雄介	蓼原3
稲葉　道夫	蓼原3
渡邉　隆司	本市場１
坂本　豊和	ユニプレス㈱
影山　智久	ユニプレス㈱
中江　充	ユニプレス㈱



オブザーバーとして、常葉大学社会環境学部の河本尋子教授にご協力いただきました。

参加者の声（アンケートより一部抜粋）

▶住民同士のコミュニケーションが大切。

▶企業内での防災、BCPは取り組んできたが、近隣との連携も重要だと感じました。

▶被災した際に支援制度があり、使えることを知ることができてよかった。

▶事前にできる事を考えることが出来たのは有用だった。

▶事前にできる事もたくさんあり、実行するか否かで復興のスピードも変わるかもしれないと感じた。

▶なかなか難しい訓練でした。

▶洪水による水害での被害が大きい地区であるとの理解を深めることができました。

▶まちづくりを進めていくには、地区のコミュニケーションが大変重要なことだと思いました。

オブザーバー：河本　尋子 教授（常葉大学　社会環境学部）からのメッセージ



今回のロゼシアター周辺地区の復興まちづくり訓練では、参加者の皆様が、地域のさまざまな良い面を実感していらっしゃったこと、企業や市とのつながりを重視されていたこと等が、大変印象に残りました。

訓練では、被災者生活再建カード（弁護士　永野海氏作成のボードゲーム、同氏ホームページ「ひさぽ」参照）を端緒として、まだ経験していない大規模災害の被害および対応を話し合いました。難しいテーマでしたが、各グループでの活発な議論を通して、復興まちづくりの方針を提案していただきました。

地震や大雨等、災害への社会的関心がより一層高まる中で、平時に事前対策を講じる貴重な機会として、今回のような取り組みの継続が大変重要であると考えております。

被災した場合に、迅速かつ着実な復興を目指すために

被災後の混乱期であっても迅速かつ着実な復興を目指すためには、被災前から「地区の復興をどのように進めるか」を考え、共有しておくことが重要です。本計画で位置付けた取組を実施可能なものから進めることで、地域の防災力を高め、より良いまちづくりを目指していきましょう。

【問い合わせ先】
〒417-8601　富士市永田町一丁目100番地
富士市　都市整備部　都市計画課　都市政策担当
TEL：0545-55-2785　FAX：0545-51-0475　E-mail：toshikei@div.city.fuji.shizuoka.jp

復興まちづくりニュース

～ロゼシアター周辺地区編～　令和８年11月発行

ロゼシアター周辺地区で、「災害が発生した場合に、どのような被害が発生し、復興をどのように進めるか（事前復興）」について、市民・事業者・行政が一緒に考える「復興まちづくり訓練」を実施しました。

復興まちづくり訓練で出た意見をもとに、被災後の復興で目指す地区のまちづくりの方向性や、円滑な復興を実現するための取組などを示した**ロゼシアター周辺地区 復興まちづくり計画【訓練版】**を作成しました。

事前復興の考え方

南海トラフを震源とする巨大地震への危機感が高まっている中、被災しても迅速かつ着実に復興を実現することができるよう、災害発生前から**事前**に**復興**の準備を進める必要があります。

事前復興とは、あらかじめ、復興の課題を想定し、復興まちづくりの方向性や進め方について、市民の皆さんと行政が一緒に考えておくことです。

復旧と復興

復旧とは、道路や河川、上下水道等のライフラインの復旧といわれるように、被災の影響を「ゼロ」に戻していくことです。

復旧・復興

復興とは、まちの復興、産業の復興と言われるように、被災前の状態より「プラス」の状態をつくり出していくことです。

復興訓練の内容

第１回目：令和７年11月10日
- 訓練について概要の確認
- 事前復興の必要性について
- 被災からの生活再建について考える

第２回目：令和８年２月26日
- 事前復興の取組について
- 災害リスクの確認
- 地区の良いところ・改善したいところの確認
- 発災後の復興まちづくり方針を策定

第３回目：令和８年５月14日
- 復興まちづくり方針を実現するための取組の検討

第４回目：令和８年７月16日
- 今からできる取組を考える
- 復興まちづくり計画【訓練版】の策定



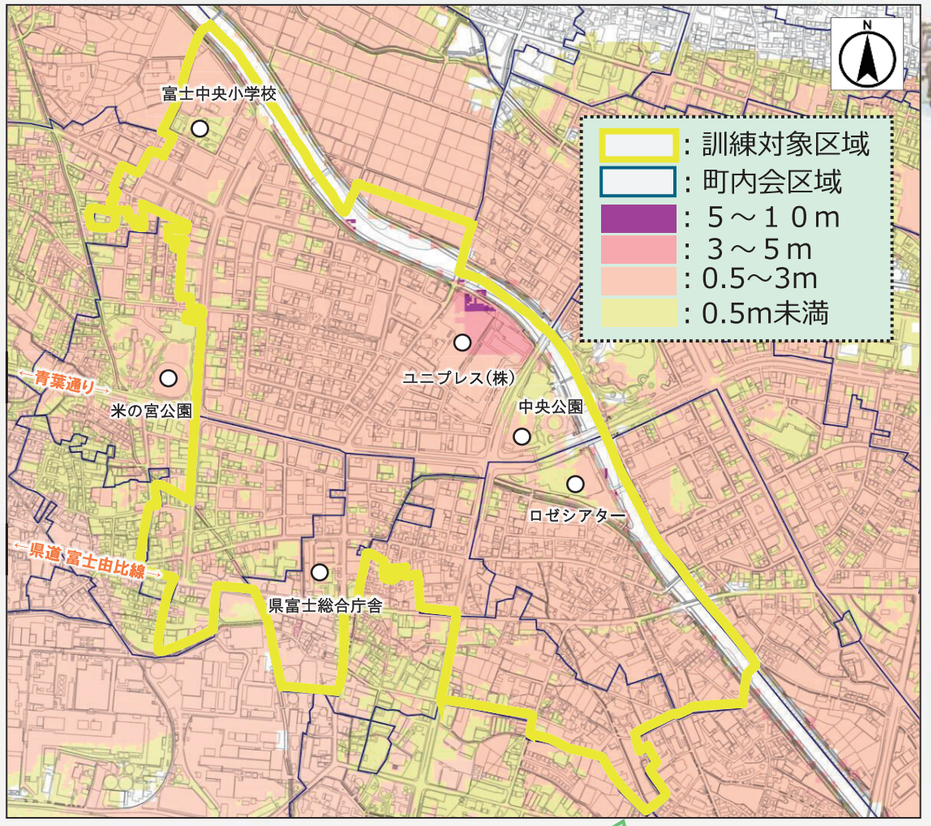


ロゼシアター周辺地区復興まちづくり計画【訓練版】

復興の過程で目指すべきまちづくりの方向性を示す「復興まちづくり方針」を検討し、方針に沿ったまちづくりを円滑に進めるために必要な取組を位置付けました。

※この計画は、災害が実際に起きた時に作成する復興まちづくり計画の素案となるものです。

01 ロゼシアター周辺地区の最大浸水想定



【確率：1/1,000年】
訓練対象区域内において、
富士川・潤井川が氾濫した場合の浸水リスクが想定されています。
最大浸水想定が、5～10mの区域があります。

復興で目指すまちをイメージするために、地区の現状を、暮らし、安全・安心、伝統・歴史・文化、景観・自然環境の視点から再確認しました。
出された意見をもとに、「復興まちづくり方針」を決めました。

02 ロゼシアター周辺地区の良いところ、改善したいところ

	良いところ	不安に感じる・改善したいところ
暮らし	・お店が近く暮らしに便利 ・交通の便が良い ・富士駅、新富士駅、東名ICに近い	・交通量が多い ・隣近所のつながりが弱い ・食料の備蓄に対する意識が低い
安全・安心	・病院が近い ・耐震基準を満たす家屋が多い ・公園が整備されていて子育てしやすい	・農地の宅地化 ・細い道が多い ・川の水が簡単に溢れて一面が浸水する
伝統 歴史 文化	・祭りが多い ・歴史ある年中行事が多い ・稲荷神社がある	・昔からの行事が無くなっている ・継承者不足
景観 自然環境	・大きな公園がある ・潤井川の土手の散歩道がある ・美しい姿の富士山が見える	・真ん中に下堀が流れている ・潤井川が天井川 ・高い場所がない

復興まちづくり方針

★まちなかの利便性を生かし老若男女が安心して暮らせるまち
★地域とつながりが強く企業と共存できるまち
★富士山の見える景観を残す

03 方針を実現するための取組

今からできる取組

復興まちづくり方針【訓練版】に沿ったまちづくりを実現するため、地区の皆さんが主体で実施できる“今からできる取組”を位置付けました。

★祭りに子どもが集まる工夫をする
★地域のワークショップに企業の従業員を呼ぶ
★非常時の企業施設の開放を取り決めておく
★様々な支援制度の有無と手続き方法の確認
★町内の歴史などを再確認し、新しい住人とも共有していく
★公園や緑地を定期的に清掃する
★地域の人たちに復興のアナウンスを行う
★水道、電気が無くなった時の対応を今から考えておく
★まちづくり協議会などで今からどの様な復興が良いか考えておく
★企業と一緒にできる行事を作る
★心のケアができる人を通常時より育成しておく
★代替わりした時の引継ぎをしっかりとする

被災後に必要な取組

事前に考えておくことが重要である“被災後に必要な取組”を決めました。

●申請手続きの簡素化
●道路復旧の優先度決め
●非常食の再備蓄
●企業との連携
●空アパート 空き家の開放
●コミュニケーション
●移動手段の確保
●子どもの遊び場の確保
●用水路の見直し
●治水設備の整備
●土地のかさ上げ
●企業、廃校の利用
●行事を続ける
●早期の操業再開を目指す
●旧東海道史跡の再整備
●花壇の整備
●無電柱化の推進
●公園の確保
●高さ制限を設けた建築物
●災害対策の家づくり
●区画整理の実施
●人材バンクの構築